

令和8年度丹後PTA指導者研修会 報告



令和8年5月 31 日(日)、アグリセンター大宮において丹後教育局管内の幼稚園・こども園、小・中学校、府立学校のPTA・保護者会役員を対象に「令和8年度丹後PTA指導者研修会」を開催しました。講師にはNPO法人生涯学習サポート兵庫 理事長 山崎 清治 様をお迎えし、「無人島の一週間が育む自分で決める力と支え合う心」と題して講演いただきました。

講演では、「子どもが自ら育つ環境づくり」に向けて、参加者自身の子どもへの関わり方について今一度振り返り、子どもが主体的に育っていくためには、当事者意識をもたせることが重要であり、対話をとおして、子どもの思いや価値観を理解することが大切であるという「子育て」の考え方について理解を深める機会となりました。また、今の子どもたちに必要な非認知能力の育成や経験学習モデル、対立体験の必要性、対話する力を育むことなど具体的な子どもの姿をイメージしながら、大人自身が子どものためにできることについて考える時間となりました

参加者を中心として、「子どもが自ら育つ環境づくり」が、丹後地域全体に広がっていくことを期待しています。

〈参加者感想より(一部)〉

・子どもたちが自分の足で力強く歩いていくために、関わる大人の一人として”その子自身”を信じ、見守ることを大切にしたいと感じました。”こうでなければならない”と考えているつもりはなくても、そういう考えが染み付いているのかもしれないと考えさせられました。子どもの可能性を最大限に引き出せる大人でありたいと思いました。



・本日の講演は、とても学びの多い内容でした。「非認知能力」「対立体験」「経験学習(サイクル)」「受援力」など、気になるキーワードが多くあり、今後さらに考えていきたいと感じました。

・子どもたちが自分で考えて、問題を解決する力を付けることが大切だと思いました。日常生活でも何かできることがないか考えたいと思います。

・子どもの可能性を引き出す手法や大人になって忘れた子どもの頃の感性を強く理解できた。

・子どもが自分で考えて、それを表現することと、他者の考えをしっかりと聴いて尊重する姿勢を育てる大切さを実感しました。大人が焦って教えようとするのではなく、子どもが自ら身につけていくことが良いと思いました。

・今の子ども達の特徴と、目の前の生徒たちの状況がよく当てはまっており、振り返りや自己決定することの必要性についてあらためて感じさせられました。家庭や学校では、早く解決させようとか、未然防止のために子ども達から体験を奪っていることに反省しました。「聴す(ゆるす)」という言葉のとおり、じっくり、子どもと向き合っていきたい。

・子ども達に付けさせたい未来を生き抜く力について改めて考え直すことができた。また、子ども達に自己決定や話し合い(対話)をもとにした納得解を導き出す経験をPTA活動、家庭、学校教育の中で進めていくためには、そういった環境を準備していく必要性を感じた。PTA活動でも、子ども達に体験や経験を通した学びを提供できるように、ねらいを明確にして活動や取り組みを考えていきたい。

